カンダタナイト

チョモ・ラマン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
カンダタナイト

【Ｎコード】
Ｎ３５２５Ｚ

【作者名】
チョモ・ラマン

【あらすじ】
他人のために自分を犠牲にできる人間を、人はヒーローと呼ぶ。だが、その少年は違う。自分のために人を犠牲にする屑の中の屑、その名は神多田慧吾。
この少年が戦う理由はただ一つ。己の欲を満たすため也。

1、序章

僕は今、細い糸を必死でよじ登っている。
理由は良くわからない。そもそも自分が誰なのか、何故こんな場所にいるのかもわからない。
ただ自分の遥(はる)か下に広がっている『奈落の底』には落ちたくなかった。
だから、ひたすら登るしかない。いつ切れるともわからないこの細い糸を。

上へ上へと登っていくと大きな雲が見えてきた。
その雲の一部から金色の光が漏れている。僕は何故か、そこがこの苦しみから解き放ってくれるゴールだとわかった。

もう少し。もう少しでそのゴールにたどり着ける。僕がそう思った時、急に糸が揺れた。
ただでさえ細い糸がさらに張り詰めて細くなっているのが感触が伝わってくる。

何故？
下を見ると、ぞろぞろと大勢の人が僕と同じように糸を登ってくる。

やめろ！登るな！降りろ！糸が切れるだろうが！！

僕は大声で怒鳴るが、そいつらは一向に僕の言うことを聞こうとしない。
仕方がない。
僕は足を使って自分の下の糸を引きちぎった。
奴らは叫び声を上げて奈落の底に落ちていった。

ざまあ見ろ。この糸は僕だけの物だ。勝手に登ろうとするからこういう目にあうんだ。

さて、後は僕がゴールに着くだけだ。

そう思って、登り始めると上から声が聞こえた。

見上げると、雲の隙間から垂れている糸のすぐ近くに何者かの足が見えた。

『なんと罪深い。なんと救い難い。やはりお前はただの罪人であった。救いを与えるべきではなかった』

そう言って、誰かはその糸を切った。

一瞬の浮遊感。そして直後、僕の身体は重力の支配下に置かれた。

落ちる？

僕が？

何で？

罪深い？

救い難い？

ふざけるな。

「僕が」

「僕のために行動して」

「何が悪い！」

そう叫んだ瞬間、僕は重力の鎖を振りほどいた。
僕の身体は上へと垂直に突き進む。雲の隙間に手を伸ばす。
そして。

僕を落とそうとした憎きクソボケの足首をつかむ。

「お前が・・・落ちろおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉ！！」

そいつを雲から引きずり落とす。
まっ逆さまに奈落へと落ちていくそいつ。そして雲の上へと這（は）い上がる僕。

刹那、そいつの顔が見えた。そいつは以外にも女だった。
黒い髪に黒い瞳。整った顔立ち。芸術品のような美しさを放っていた。
だが、浮かび上がっている表情は憎悪。凝り固まった怒りが全てを台無しにしていた。
僕は落ちていくそいつに一言送った。

「お前が悪い」

気付くと僕はベットの中にいた。

「夢落ちかよ」

1、序章（後書き）

不定期な連載になるかもしれませんが、良ければ読んでください。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3525z/

カンダタナイト

2011年12月12日00時50分発行